

つながる☆ひろがる



幼保小連携通信

発行:札幌市教育委員会 幼児教育センター担当課

令和4年4月

札幌市教育委員会では、令和3年度から **幼保小連携モデル事業** を実施し、**白楊幼稚園と白楊小学校** がモデル園・校として、研究を進めています。令和4年3月3日（木）に行ったオンラインによる「全市学習会」において成果や課題、次年度に向けた取組を発信し、13園23校から参加された60名ほどの教職員のみなさんと学びを共有しました。

事業の目的

発達や学びの連続性をふまえた幼保小連携・接続の**望ましい在り方**を研究

幼児・児童の交流

コロナで連携交流活動が交流ができない！

- ☞ 工夫してできることは何か
- 実践の質を高めるために
- ☞ 目指す姿を明確に・共通指導案を活用



何をするかではなく
何を育てるか

連携・接続の取組で大切なのは「何をするか」ではなく「この活動を通して幼児児童にどのような資質・能力を育みたいか」です。そのために工夫したことや今後実践の質を高めるために改善していくことなどを発表していただきました。

学びのつながりを教職員で共有

スタートカリキュラムの実践で感じた課題

- ☞ 幼稚園の先生と一緒にカリキュラムについて考える
- 授業参観後に子どもの姿を語る
- ☞ 幼稚園も小学校も育てたいところが同じ！



学びがつながる
カリキュラムへ

幼稚園の先生と話したことで気付いた**カリキュラム見直し**のポイントや、授業参観をきっかけに確認できた**共通の育みたい資質・能力を、それぞれの教育活動でどのように育むかを考える**ことの大切さも併せて発表していただきました。

研究アドバイザーより（北翔大学教授 西出勉氏）



- 目標の設定と共有化においては、見取りの観点も共有することが必要
- 目指す子ども像は、「10の姿」や「資質・能力」から語り合うこと
- スタートカリキュラムのデザイン（見直し・再構成）は、子どもの姿のリサーチが大切
- 実践の記録化・可視化は、互いの実践のイメージを共有することにつながる
- 園内・校内の体制づくり・役割分担の明確化

評価の質

実践の質

継続した推進

全市学習会の発表資料（具体的な取組）はコチラ

☞ <https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/youjikyoku/yousenn/youhosyounosuisinn.html>



ご質問、ご感想等は幼児教育センター担当課までお願いします。 TEL671-3220